

# 序章

## はじめに

1. 基本構想策定の目的と位置付け
2. 本構想の策定手順と本書の構成

1. 基本構想策定の目的と位置付け

平成23（2011）年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震と津波、そして原子力災害という未曾有の複合災害を福島が経験して、6年が経過しました。

東日本大震災、とりわけ誰もが経験したことのない原子力災害の実態や復興への取組など、福島がこれまで経験してきたこと、経験から得た教訓、そしてこれから経験していくことを、国を越え世代を超えて継承し共有することは、福島県だからこそできることです。

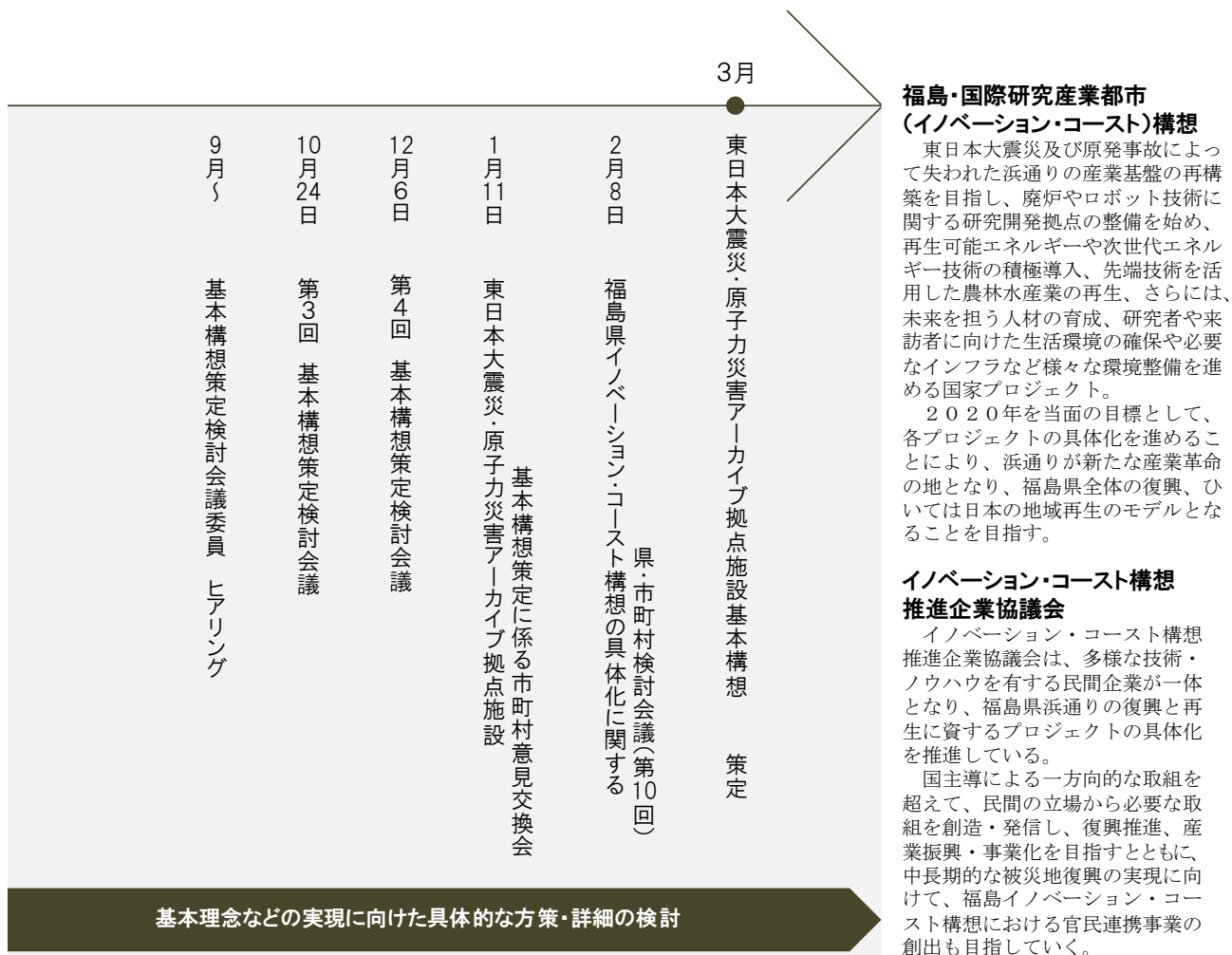
平成27年3月の福島イノベーション・コースト構想における「国際産学連携拠点に関する検討会」の中間整理の中で、「福島県において、研究会を立ち上げ、情報発信拠点（アーカイブ拠点）の具体的な姿について検討し、国においても、福島県での検討結果の提案を受け、具体化を推進すること」が示されました。これを受ける形で、平成27年4月に「東日本大震災・原子力災害アーカイブ拠点施設有識者会議」（以下「有識者会議」という。）を設置し、同年9月に「東日本大震災・原子力災害アーカイブ拠点施設の機能、

	平成27年度			平成28年度					
	3月	4月	9月	5月	5月	6月27日	7月28日	8月20日	8月29日
国際産学連携拠点に関する検討会 中間整理		東日本大震災・原子力災害アーカイブ拠点施設有識者会議 設置	有識者会議が報告書「東日本大震災・原子力災害アーカイブ拠点施設の機能、内容等について」を県知事に提出 計5回の有識者会議を開催	東日本大震災・原子力災害アーカイブ拠点施設基本構想策定に係る 検討会議 設置	市町村アンケート （7月までに避難を余儀なくされた12市町村にヒアリング）	第1回 基本構想策定検討会議	第2回 基本構想策定検討会議	「ふくしまの記憶と記録、未来に伝えるシンポジウム」	アーカイブ拠点施設の建設予定地を双葉町中野地区に決定 新生ふくしま復興推進本部会議（第58回）において、
		基本理念の策定と機能や運営方針などの検討		「東日本大震災・原子力災害アーカイブ拠点施設の機能、内容等について（報告）」における					

内容等について（報告）」（以下「平成27年度有識者会議報告書」という。）が、県知事に提出されました。

「東日本大震災・原子力災害アーカイブ拠点施設基本構想」（以下「本構想」という。）は、平成27年度有識者会議報告書の中で掲げられた基本理念や機能等の実現に向け、事業・活動、展示、施設等を検討し、今後の具現化に当たっての指針とすることを目的とします。

また、福島の実験や教訓を県全体で残し発信することを目指し、県内の様々な意見を参考に本構想を取りまとめました。県下で活動される方や専門家で構成する「東日本大震災・原子力災害アーカイブ拠点施設基本構想策定に係る検討会議」（以下「基本構想策定検討会議」という。）を開催するとともに、「ふくしまの記憶と記録、未来に伝えるシンポジウム」を開催し、県下から幅広く意見を集めました。さらに、市町村との意見交換会やアンケート、個別ヒアリング等の実施、今後の連携を見据えたイノベーション・コースト構想推進企業協議会との意見交換等も併せて実施するなど、県民、行政、民間からの幅広い意見をもとに本構想の策定を行いました。



## 2. 本構想の策定手順と本書の構成

本構想の策定手順として、平成27年度有識者会議報告書の「基本理念」をもとに、アーカイブ拠点施設で伝えること（メッセージ）とアーカイブ拠点施設が果たす役割を掲げ、事業・活動の具体的な内容のほか、展示や情報発信の内容等の「ソフト面」を先行して検討しました。その後、「ソフト面」を実現するために必要となる施設や、管理運営に関する計画という「ハード面・運用面」を策定しました。

1章では、基本理念の確認とともに、基本構想策定検討会議、シンポジウム、市町村、福島イノベーション・コースト構想関連などからの意見を整理・分析しました。

2章では、1章をもとに基本理念や意見・要望を踏まえた、アーカイブ拠点施設で伝えること（メッセージ）を掲げ、施設の果たすべき役割を示すとともに、具体的な事業や活動に関する検討を行いました。

3章では、2章で掲げた4つの事業の中のひとつである「展示・プレゼンテーション」について、具体的な内容や伝えたい内容を検討しました。

1章から3章のソフト面の検討をもとに、4章ではアーカイブ拠点施設の立地条件に併せて、必要となる建物や設備、そして規模などを設定しました。また、5章では、ソフト、ハードを末永く実現・維持、発展していくための管理運営に関する検討を行いました。加えて、直近のスケジュール目標や、中長期的視点での管理運営に必要な事項を整理しました。

### 東日本大震災・原子力災害アーカイブ拠点施設基本構想 章構成

<b>1章</b>	<b>本構想策定に係る 意見・要点の整理</b>	～基本理念や様々な意見を確認・共有する～
<b>2章</b>	<b>アーカイブ拠点施設の 基本的考え方と 事業・活動計画</b>	～伝えること・役割を掲げ、実現のため必要な事業・活動を考える～
<b>3章</b>	<b>展示計画</b>	～事業・活動を満たすための展示計画～
<b>4章</b>	<b>施設計画</b>	～事業・活動及び展示計画を満たすための施設計画～
<b>5章</b>	<b>実現に向けて</b>	～1章から4章を実現するために必要なこと～

ソフト面からハード面、運用面の手順で検討することで、施設の建設を主とする構想にとどまらず、事業・活動を通して福島の記録や記憶を、末永く継承・発信するための基本構想としました。

